

第1回蒲郡市生涯学習推進計画2027策定委員会 会議録

日時：令和8年8月5日（水）
午後1時30分～3時00分
場所：蒲郡市生命の海科学館
サイエンススクール

■出席者（計11名、敬称略・順不同）

中山弘之、鈴木庸子、石川たづ子、堀井道子、牧原乙子、岡田有里子、山本紀代、市川仁史、大須賀めぐみ、鈴木康祐、稲吉初美

■事務局

壁谷教育長、三浦教育部長

【生涯学習課】市川課長、廣中、加藤、大桑

【株式会社創建】大谷、野口

■次第

- （1）教育長あいさつ
- （2）委員長、副委員長選出について（各委員自己紹介）
- （3）蒲郡市生涯学習推進計画2027について
- （4）計画策定スケジュールについて
- （5）令和7年度市民アンケート、団体アンケート集計結果報告について
- （6）市民ワークショップ案について
- （7）意見交換
- （8）その他

■開会

（事務局）

委員の皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより、第1回蒲郡市生涯学習推進計画2027策定委員会を開催いたします。なお、本日の委員会におきましては、蒲郡市生涯学習推進計画2027策定委員会設置要綱第6条第2項における定足数を満たしていることをご報告させていただきます。

それでは、始めに配布資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご覧ください。

<配付資料の確認>

(事務局)

これより、次第に沿って進めさせていただきます。

(1) 教育長あいさつ

(事務局)

本日は第1回目ということで、教育長と教育部長に出席いただいております。蒲郡市教育委員会を代表しまして、壁谷教育長よりごあいさつを申し上げます。

(壁谷教育長)

あらためまして、皆さんこんにちは。教育長の壁谷でございます。本日は皆さん大変ご多用の中、また暑い時期が続いておりますが、そんな中、生涯学習推進計画2027第1回策定委員会にご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。

せっかくの機会ですので、少しお話をさせていただきます。ここしばらくの間に、自分の高校時代の同級生に会うことができました。7月12日に、今日もいらっしゃる蒲郡市吹奏楽団の皆さんに、東三河芸能大会にご出席いただきました。文化協会の鈴木会長、大原事務局長など、たくさん聴きに行かせていただきました。遊び心があふれる素晴らしい発表で、その中に、私の中学・高校時代の同級生も参加されておりました。まさに生涯学習を行っておられるお姿を見て、感動いたしました。

また、西浦学園の新校舎の完成セレモニーでは、高校時代の同級生の大村秀章知事にお会いしました。

昨日は、これから進めようとしているスポーツ・文化教室の研修会に、吹奏楽や美術の講師を引き受けていただける方にも来ていただきました。これから力を貸していただけるとありがたいです。

この生涯学習推進計画は、現在第4期の5年目、本年度が最終年度です。第5期となる推進計画2027を、もう8月に入りましたので、これから正味半年で策定していくことになります。今回の策定にあたりましても、市役所の各課が取り込む事業を通じ、学びや課題などについて、計画にどう盛り込んでいくのかを話し合う機関として庁内検討会、また、市民の皆様から広くご意見をいただくワークショップを開催して参ります。この策定委員会は、蒲郡市の生涯学習と深く関わっていただいている団体の皆様にご参加をいただきまして、それぞれのお立場から、生涯学習について熱く語っていただく本丸だと思っております。蒲郡市ならではの生涯学習推進計画となりますよう、委員の皆様のごこれまでのご経験を通して、忌憚のない活発なご意見をいただければと思っております。

なお、今回の計画も前回大変お世話になりました、愛知教育大学准教授の中村弘之先生にご協力をいただきます。この度は大変ありがとうございます。また、計画の策定に関わる皆様も1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上で私からの挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたしますします。

■議事

(2) 委員長、副委員長選出について（各委員自己紹介）

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、次第2「委員長、副委員長選出について」に移ります。

はじめに、委員委嘱についてです。蒲郡市生涯学習推進計画 2027 策定委員会設置要綱第3条によりますと、委員は市社会教育委員、各種団体の代表者、その他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱することになっております。委員は13名で、任期は推進計画策定の日までです。委員の皆様の委嘱状は、机の上に置いてありますのでご確認ください。

それでは、委員長、副委員長選出について、生涯学習課長の市川よりご説明させていただきます。

(事務局：市川課長)

委員長、副委員長の選出につきましては、まず委員長は、蒲郡市生涯学習推進計画 2027 策定委員会設置要綱第5条第2項によりまして、委員の互選により選出することとなっております。委員長につきましては、事務局より愛知教育大学の中山准教授を推薦させていただきたいのですが、いかがでしょうか。

<一同、拍手>

(事務局)

ありがとうございました。皆様からご承認の拍手をいただきました。中山先生、よろしくお願いいたしますします。

(中山委員長)

よろしくお願いいたしますします。ただいまご推薦をいただきまして、委員長を務めさせていただくこととなりました。どうぞよろしくお願いいたしますします。それでは、ここからの進行については、事務局にかわりまして、私の方で進めさせていただきますと思います。

それでは、続きまして、副委員長について、市川課長お願いいたします。

(事務局：市川課長)

次に、副委員長につきましては、蒲郡市生涯学習推進計画 2027 策定委員会設置要綱第5条第3項により、委員長が指名することになっております。中山委員長より副委員長をご指名いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(中山委員長)

ありがとうございます。それでは副委員長の指名をということですが、やはり生涯学習の計画をつくっていく上では、普段から社会教育についてご意見をいただいている、住民の皆様の代表をお願いするのが相応しいかと思います。そういう点で言いますと、社会教育審議会の会長をされている鈴木庸子さんをお願いしたいと思います。鈴木様、よろしいでしょうか。

(鈴木副委員長)

はい。

(中山委員長)

ありがとうございます。

それでは、委員長の就任あいさつも合わせまして、自己紹介に移りたいと思います。委員長より順番に、名簿順に自己紹介をお願いいたします。

<委員自己紹介>

(中山委員長)

ありがとうございました。皆様、計画策定までご協力の程よろしくお願いいたします。また、この推進計画の策定に関しては、公募型プロポーザルによって選定された業者の方にお手伝いいただきます。株式会社創建の大谷様と野口様です。簡単にご挨拶をお願いいたします。

<株式会社創建あいさつ>

(3) 蒲郡市生涯学習推進計画 2027 について

(中山委員長)

ありがとうございました。

それでは、次第3「蒲郡市生涯学習推進計画 2027」について、担当よりご説明をお願いいたします。

<資料1に基づき事務局説明>

(中山委員長)

こちらの内容について、ご質問はありますか。

<質問なし>

(4) 計画策定スケジュールについて

(中山委員長)

続きまして、次第4「計画策定委員会スケジュールについて」、担当よりご説明をお願いいたします。

<資料2に基づき事務局説明>

(中山委員長)

こちらの内容について、ご質問はありますか。

(委員)

ある程度具体的な日にちは決まっていますか。

(事務局)

庁内会議を9月25日に予定しており、その後、策定委員会を開催いたします。中山先生のご予定と調整をしまして、なるべく早めに皆さんにご案内させていただきますが、9月下旬から10月頭を予定しております。

(中山委員長)

ありがとうございます。その他、ご質問等よろしいでしょうか。

(5) 令和7年度市民アンケート、団体アンケート集計結果報告について

(中山委員長)

続きまして、次第5「令和7年度市民アンケート、団体アンケート集計結果について」、担当よりご説明をお願いいたします。

<資料3に基づき事務局・株式会社創建説明>

(中山委員長)

こちらの内容について、ご質問等ありますか。

(委員)

9ページのGCSLについてですが、やはりこれを見ると「興味がない」、「知らない」という方が多いので、教室や発表会の広報だけではなくて、もう少し目に触れる機会があると、メンバーも増えるのではないかと思います。

(事務局)

広報については、生涯学習課としては単独のSNSアカウントがありますが、フォロワーが伸びないという現状もあります。市のLINE等で、効果的にプッシュ型の宣伝をしていけたらと考えております。

(委員)

回覧板で回すのはどうでしょうか。

(事務局)

地域の回覧板には、広報に載せたものは新たに資料として載せられないことになっておりますので、何かしら手段を増やす工夫をして、取り組んでいきたいと考えております。

(中山委員長)

ありがとうございます。他にご質問等よろしいでしょうか。

調査の結果、様々な課題がみえてきているかと思いますので、それを計画づくりに反映して、進めていければと思っております。

(6) 市民ワークショップ案について

(中山委員長)

続きまして、次第6「市民ワークショップ案について」、担当よりご説明をお願いいたします。

<資料4に基づき事務局・株式会社創建説明>

(中山委員長)

ありがとうございます。こちらの内容について、ご質問等いかがでしょうか。

私からよろしいでしょうか。この申込は、もう始まっていますか。

(事務局)

申込は始まっておりますが、まだ少ない状況です。

(中山委員長)

生涯学習がテーマでワークショップを行っても、なかなか参加者が集まらずに苦勞をすることが多いのですが、その辺り、どういう工夫をされるのかを伺いたいです。

(事務局)

庁内検討会での案としては、市内の高校のボランティアで、蒲郡市と連携してやっているところがあるので、まずはそこへ働きかけをして、関係の部署と連携を取っていけたらと考えております。また、この委員会の委員の皆様はそれぞれ団体の代表でいらっしゃるの、生涯学習課の方からお声掛けしてい

た方が良いとは思いますが、ぜひ参加していただけるとありがたいと思っております。施設のワークショップは割と集まりやすいイメージがありますが、ソフト部門の、推進計画のワークショップというところ、やはり自発的に来られる方は少ない、と感じているところではあります。

(中山委員長)

「生涯学習」という言葉になると、ぼやっとするので、集まりにくくなりますね。先程ご発言いただきましたように、声を聞きたい分野の方を活用していくことも、ある程度必要かと思います。そうした面も含めて、多くの人に来ていただけるよう、事務局も頑張ってください、委員の皆様にもワークショップに参加していただいて、ご意見を出していただけると良いかと思います。

その他ご意見、ご質問等はございますか。

(委員)

参加者が市内在住・在学・在勤の15歳以上と幅が広いのですが、中高生は「生涯学習」という言葉に馴染みがなく、何をやるか分からないこともあると思います。外国籍の方も「生涯学習」という単語の意味が分からないこともあると思いますので、ある程度ターゲットを絞らないと、グループでの話し合いは難しいと思います。

(事務局)

委員長、年齢層の幅というところで、例えば他の自治体の生涯学習のワークショップでは、どんな年齢層の方が参加しているかなど、何か情報は持っていますか。

(中山委員長)

自治体によっては、子ども向けと、広い年齢層の市民ワークショップに分けて開催しているところもあります。ただ、生涯学習がテーマなので、子どものワークショップは人が集まらないと聞いたことがあります。社会教育審議会の中だけで計画を立てて、市民ワークショップすら開いていないところもあります。蒲郡市はワークショップをきちんと開いて、市民の声を聞こうという姿勢が明確なのは、非常に良いことだと思います。

(事務局)

ありがとうございます。今は幅広く募集をしているところですが、グループ分けについては、参加者が集まってから創建さんと相談しながら考えていきたいと思います。まずは人集めを頑張りたいと思います。

(中山委員長)

そうですね。ある程度人が集まらないと議論が出来ませんので、よろしくお願いいたします。

(7) 意見交換

(中山委員長)

続きまして、次第7「意見交換」になります。それぞれの次第でも質問やご意見をいただいておりますが、先程は言えなかったことや、生涯学習推進計画を考えて行く上で検討してほしい事柄など、皆様からご意見、ご質問等をいただけたらと思います。また、ご自分の所属団体で取り組めることや現在課題となっていることなど、いろいろな気づきがありましたら、ここでご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

名簿順に皆様からご発言をお願いできたらと思います。

(委員)

今日初めて説明をお聞きして、概要は分かりましたが、この5年間で、例えばアンケートの中でこういうことがあったので、ここをもう少し掘り下げて調べてみたい、ということがあるのかなど、どういう形で具体的な形に取りまとめをするのかが、今日の話だけでは見えてきません。ワークショップを行うのは良いことですが、世代によって考え方は違います。18歳の若い人と後期高齢者とでは、考えていることが全く違うので、年代をどこに絞るかによって、意見がすごく違ってくると思います。広いところでやるのも必要ですが、20人だけで世代全部のデータを把握するのは難しいです。どこを中心に考えるつもりなのかを、お聞きしたいです。

(株式会社創建)

ワークショップの場で、全ての市民の意見を捉えるのは難しいです。ワークショップの主旨としましては、行政や関係者の中だけで得られる意見やニーズ、課題だけではないものを、ワークショップに参加していただいた方から出していただくことです。ですから、ワークショップ自体はそういう形でやらせていただき、その他の幅広いニーズや課題については、別の機会で捉えて、しっかり把握し、計画に反映させていくことになります。

(事務局)

世代のどこを中心に、ということについては、そこだけを切り取るというのは、生涯学習課としては難しいと思っております。色々な世代のニーズを聞いて、それを計画に盛り込んでいきたいと考えております。ワークショップでは、若い人には分からない高齢の方の意見を知ること出来るでしょうし、高齢の方も、若い人の意見を聞いて気付くこともあると思います。そうしたワークショップ自体が、生涯学習が求める世代間交流といえますし、そこから導けるものがあると思うので、色々な世代の方に集まっていただくことが大事だと考えております。それぞれに焦点を当てていき、この世代にはこういう生涯学習、

ということが、だんだん見えてくると良いと思います。そういうところを委員の方々の力をお借りして、まとめ上げていたら良いと考えております。

(委員)

ボランティアで高齢者と触れ合う機会が多いのですが、今は元気な高齢者がたくさんいらっしゃいます。色々なことをやりたい方がいらっしゃるのも、もっと色々な情報を出して、若い方たちと交流する機会もできると、すごく良いと思います。そのためにはまず役所が1つになって、生涯学習課が他の課と協力しないといけません。生涯学習課が社会福祉協議会の会議に参加して、どんなことを行っているのかを見たりして、触れ合う機会があると、もっと皆の満足度が増すと思います。

(委員)

以前、違うワークショップに参加した若い方が、「色々な年齢層の方の話が聞けて、すごく面白かった」という感想をおっしゃっていました。「同年代で集まるのは簡単だし、共感し合えるけれども、知らないことを知るのは、共感できない部分もあるけれども、面白かった」とおっしゃっていましたので、やはり色々な年齢層が集まるのは良いことだと思います。

(委員)

なるべく広くやって欲しいと思います。若い人と高齢者では考えが違いますが、一緒に意見交換をすることによって、お互いを理解できるようになるので、できるだけ偏らずに、色々なところで活動している、色々な人の意見を互いに聞けると良いと思います。それが20人でどこまで出来るのかは、なかなか難しいと思います。色々な話が出来るように、テーマのようなものをつくって、3回という限られた時間の中で、年代の違いだけでなく、活動の違い、運動をやっている人と文化活動をやっている人とでも全然違うので、そういうことも情報として入ってくると、色んなところで交流ができると思います。高齢者が元気になってきたといっても、外に出てやっている人は元気ですが、案外そうでない人もいます。そういうところも引っ張り出すようなこともやって、元気にやってもらうことも含めて、将来を考えないといけません。色々なところで意見を聞いて、蒲郡に合った計画にまとまると良いと思います。博物館は必要ないという若い子でも、交流して話してみると、やはり必要だと理解してくれるので、年代が違ってもしゃべれば理解できるようになります。活動している場所や施設によっても考え方が違うので、世代だけでなく、活動場所の違いを含めた、色々な意見交換が必要だと思います。

(委員)

GCSLの活動はとてももったいないと思っています。広報がまごおりに、GCSLの団体の活動紹介を載せられないでしょうか。まずは知ってもらわな

いと、また相手の顔が見えないと、頼みにくい面があります。毎月1団体載せていけると良いと思います。

それから、ワークショップのURLを知りたいです。URLが分かると、所属団体のグループに送ることができます。締め切りまでの申込日数が少ないので、皆さんにお知らせして、そこから発信してもらう形が良いと思います。公報がまごおりは私も見ましたが、この募集記事には気づきませんでした。

「ワークショップの内容案」の、第2回の「仮想の市民」は良いと思います。高校生が子育て世代のことや、高齢者が学生は今どんな活動しているのかなどを、聞くことが出来ると思います。外国籍住民の方など、今、まだこの生涯学習推進計画に参加していない人を、どうやって参加させるかを考えていただきたいです。どういう働きかけをしたら良いのか、それぞれ参加した人たちが、自分が誘うならどうするかを考えるには、とても良いワークショップになるだろうと思いました。

(委員)

ワークショップは良いと思いますが、段階を追っての構想になっているので、1回目に参加しないと、2回目、3回目は参加しにくくなるのではないかと思います。自分自身、何かやりたいと思いながらやれずに来ているので、こういう機会に色々な教室や学び方を知りたいと思うので、生涯学習のことをわかりやすく伝えて、広めていくことは大事だと思いました。

(委員)

図書館でのイベントは、大きくは生涯学習だと思っておりますが、子どもたちをはじめ、若い人たちを集めるのに苦労しております。先程のアンケートにも、参加したいものがない、という項目がありましたが、ニーズの把握が難しいです。生涯学習を進める側と参加する側のマッチングが難しいと思うので、そういうこともワークショップで見出せると良いと思います。

(委員)

地域学校協働活動では、GCSLはどこの学校も来てほしいと思っているので、ぜひ情報をもらえるとありがたいです。学校に来て、色々なことを地域の方にやっていただきたいと思っております。

世代を超えた交流や話し合いについては、今、学校運営協議会が協議員だけでなく、生徒も参加する形で、小中学生が自分たちの意見を言うような会議を行っています。子どもたち自身に関わるような、イメージのわきやすいテーマがあると、スムーズに話し合いが出来ると思います。学校運営協議会に参加したい子どもたちはたくさんいるので、議題と働きかけ方次第で、多くの人数を集めることができると思います。

(委員)

今回こういう会議に初めて参加させていただきましたが、ワークショップや生涯学習という言葉の意味を、どれくらい皆さんが知っているのかな、と思いました。どんな人を集めたいのか、とても漠然としているので、誰が来るのだろうと不思議に思います。スポーツ推進委員としては、バレーボールやスナッグゴルフの教室、ボッチャなどをやりますが、やはり人集めが大変ですし、世代どうこうよりも、皆さんが何をしたいのかを考えながら動いています。今日のお話を聞いて、こういうことをやっているのか、というのは分かりますが、その後の行動に繋がるのかは、分かりません。自分がこれをやりたいとか、この先に繋がっていかないと、意味がないように感じます。ワークショップも、どういう人が来るのかと不思議に思います。もっと絞って、こういう人集まれ、としていかないと、知らない人は知らないでしょうし、これを読んだだけでは、自分は関係ないと考えてしまうのではないかと思います。音楽やスポーツなど、昔やっていた人はそこへ戻るかも知れないし、興味があれば行くかも知れませんが、話が大きすぎて遠ざかってしまうように感じます。

(中山委員長)

皆様、ご意見ありがとうございました。

生涯学習推進計画は、この5年間の蒲郡の生涯学習、社会教育の方向性を決めていくことになりますので、非常に大事な計画づくりになります。視点として大切なのは、生涯学習に取り組んでいる市民の方々や、それをサポートする行政や施設の方々の背中を押すような計画づくりをすることです。計画で縛り付けるのではなく、生涯学習に取り組んでいる市民の方々やそれをサポートする行政や施設の方々が「頑張ろう」と思えるような、こうした方々の背中を押すような計画づくりにしていきたいので、その視点を忘れずに残された委員会を進めて行き、そうした計画を立てていければと思っておりますので、事務局や創建の皆様、そして委員の皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは委員の皆様、本日はご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。最後に事務局からご連絡があります。

(8) その他

(事務局)

事務連絡になりますが、次回開催は9月下旬から10月頭くらいを予定しております。決まりましたら、なるべく早めにご連絡をさせていただきます。

(中山委員長)

ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、本日の審議を終了させていただきます。皆様、

長時間ご協力ありがとうございました。